

地域で考えるイザ！という時の備え
～新型コロナウイルスに学ぶ危機管理～

公益財団法人 市民防災研究所
理事 池上 三喜子

想定外の災害にならないような備えをする

東日本大震災による津波被害は想定外ではなかった。
過去に明治三陸津波(1896年)・昭和三陸津波(1933年)・チリ地震津波(1960年)を経験している。(宮古市在住の荒谷家の教訓は「揺れたら逃げる」)
「想定外、瓦礫と言わないでほしい」という被災者の声を心に留めたい。

自分の居住地にどんな危険があるのか調べる

地震、津波、洪水、高潮、土砂災害、液状化、竜巻、噴火、台風、暴風雨など

避難所へ行かない「在宅避難」のための備え

怪我をしない、命をおとさない、火事を出さない備えなど

避難所で過ごさなければならない状況とは？

住宅の倒壊・流失・焼失・浸水などのほか
危険が迫ってきたと判断したら空振りを恐れず、適切な避難所へ即避難！

災害を想定し、災害後を乗り切るには？

想像力(imagination)と創造力(creation)が大切。日頃の訓練がものを言う。

- ※ 水、デンキ、ガスが使えない中で、暮らす備えができていますか？
- ※ ゴミの分別とトイレの使い方は初めが肝心。貼り紙も含めて、それらの準備ができていますか？
- ※ 情報の収集、発信の方法を知っていて、その備えはできていますか？
- ※ 家族との話し合い(集合場所、連絡方法、家族の写真、家族構成にあった備蓄品など)を含めた日頃の備えがものを言う。
- ※ 助け合える人間関係があれば、災害を乗り切ることができる。

東京消防庁が取り組んでいる総合的な防火防災診断

対象：災害時要支援者 実施範囲：全消防署

実施にあたってのポイント

- (1) 区市町村福祉関係部局、民生児童委員、地域包括支援センター、町会自治会等と連携して、実施に係る仕組みを構築した上で実施する。
- (2) 診断項目は「火災」「震災」「その他の事故」とする。

対策のアドバイス

(1) 火災に備える

- ① 火災の原因を作らない。
 - ◇コンセントの隙間にホコリや湿気が入り発火するトラッキング現象を防ぐ用具を取り付ける。
 - ◇火を使わないロウソクやお線香を使う。
- ② 火災を早期に発見する。
 - ◇住宅用火災警報器をすべての部屋につける。(無線連動型が安全)
- ③ 炎が燃え広がるのを防ぐ。
 - ◇火がつきにくく、燃えにくい「防災品」を使用する。
 - カーテン、絨毯、エプロン、パジャマ、布団、毛布など

(2) 地震に備える

- ① 自宅の耐震診断、耐震補強 ⇒ あきらめずに耐震ベッドを！
- ② 家具類の転倒・落下・移動を防止する。
- ③ ガラス飛散防止フィルムを貼る。

(3) その他の事故に備える

- ① 熱中症を防ぐ。(室温を28度以下におさえ、こまめに水分をとる)
- ② 階段から転落や浴室等での転倒を防ぐ。(手すり、滑り止めマット)

(4) いざという時に備える

- ① 緊急通報システム(ペンダント型のボタンを利用者が押すことにより、東京消防庁に救急などの通報をするシステム)
- ② 火災安全システム(住宅用火災警報器が火災を早期に発見し、自動的に東京消防庁に火災通報するシステム)

※詳細については区市町村の高齢福祉または障害福祉の担当課まで

東京 YWCA の ”シニアダイヤル” (孤独な時の身近な一人として…)

03-3293-0351(相談電話直通)

受付時間：月～土(第3土を除く)13：00～17：00(祝日休み)

常総市水害体験者の教訓 20 箇条

1. 何度も何度も判断情報を流さなければ、人は避難せず
2. 勢いは津波のごとく、遠隔地でもアッという間に水浸し
3. 避難所は圏外へ用意すべし (浸水した避難所は機能せず、生活できず)
4. 公的施設は高台へ (+水害対策)
5. 老人と病人は動けず (2階に避難、のち救助、医療等)
6. **大事な物は2階へ、ブレーカーOFFにして、薬と貴重品は持ち避難**
7. 水と電気は切れると心得よ (計画・訓練の前提に)
8. 片付けは体力と気力、臭いと衛生対策 (自分でやることの大変さ)
9. ボランティアがいなければ片付け進まず
10. 何はなくとも**ゴミ捨て場**
11. 精神的・身体的安定の確保を優先
12. 床上浸水なら1m以上も以下も同じこと (新建材は水に弱く、1階部分は全リフォーム)
13. わが家の保険の見直しを (アッと驚く工事見積もり)
14. **証拠写真の重要性** (法的支援制度に実証必要)
15. 公的住宅は市外がほとんど
16. 情報はわかりやすい声と紙+IT
17. 行政は復旧・復興の手続きの実践的訓練を (混乱する窓口事務)
18. 有効な復興対策を (自宅再建・移転対策・産業対策)
19. 水害と地震は全く異なる災害 (体制・訓練や法的制度の見直しを)
20. 自然への畏敬の念を持ち続けること。後世に伝える努力を

熊本地震体験者の教訓

1. 水が生命線となる
2. トイレとゴミ問題は水害も地震も同じ
3. 家具転倒防止より家具をなくす方が効果的
4. 都市ガスよりプロパンガスの方が震災に強い
5. 東京は更に深刻な被害になる
6. 支え合いが不可欠

参考図書

「暮らし」を取り戻すための復興マニュアル『災害のあと始末』

監修 林 春男(京都大学防災研究所教授) 東日本大震災緊急改訂版

発行所 株式会社エクスナレッジ 定価 本体 900 円+税